

年間指導計画表

この表は「書道」について、単元・教材、および指導内容等を一覧表したものである。学習指導要領内容の取り扱いに示されたように、指導内容の深化と生徒の興味・関心に応じた指導をより積極的に行うために、「漢字仮名交じりの書」と「漢字の書」、また課題学習としての「卒業記念作品集を作ろう」に重点を置いたものである。なお、第3学年の授業時数の実態を考慮して、52時間の内容とした。

月	単元・教材	教科書ページ	担当時間	指導内容・指導上の留意点
4月	書と文化			芸術としての書が、中国あるいは日本において、それぞれの時代の要求や目的に応じて表現され、機能を果してきたことを生徒が文化としてとらえるようにする。
	皇帝と書	2・3	2	天の意思を代弁する皇帝の象徴としての書を受感させる。
	士大夫と書	3		自己の精神を率直に表現する手段としての書を受感させる。
	仮名文学と書	4		日本特有の文化の成果であり、その後文化の基礎ともなったことを感受させる。
	禅と書	5		精神性の高い書の影響力を感受させる。
現代の書	6・7	現代の書の多様な表現と、書の在り方について考察させる。		
5月	漢字仮名交じりの書 個性的・創造的表現を目指して 良寛、島木赤彦他	8～13	14	いわゆる古典というものではないが、名品について鑑賞し、感性を高めるとともに、作品制作に生かせるようにする。
	作品制作 (1) 構成の研究 字数、リズム	14～16		作品や解説文から、筆者の人となりや心情、表現意図などを洞察し、発表する力をつけさせる。選定した文句に対する責任と愛着を持ち、よりよく表現するための技量と態度を高めさせる。文句の理解と表現意図の大切さを追求させる。特に構成において余白の生かし方に着眼させる。また、ことばのリズムを生かし作品にさせる。
	(2) 線質の研究	17		これまでの学習で習得した運筆・用筆を活用するとともに、表現意図の具現のため、自分の技量との葛藤を大切にさせる。
6月	漢字の起源について調べよう (説明 レポート提出9月)	25	1	次の「漢字の書」の動機付けを意図し、自分の氏名(原則)を図書室等を利用した調べ方、レポートの書き方を説明する。
	実用書	70～73	3	毛筆・硬筆の実用書から今日的な実用と芸術の関係性を考察させるとともに、一般的な書例から練習させる。 なお、第3学年としては履歴書も関心呼び易いが、人権に抵触することない指導とする。

7月	漢字の書 篆書による学習（甲骨文）	18・19	4	<p>最古の文字の造形と精神性を鑑賞と臨書により、理解の効果を高めさせる。</p> <p>夏期休業中の課題提出物の中から優秀作を数点選び、授業の中で発表させる。また、発表作以外も可能な限り展示する。</p> <p>興味・関心に応じて計画的に学習し、その成果を検証できる能力を育てさせる。同時に生涯学習としての学ぶ態度を身につけさせる。</p> <p>「学習の記録」を毎回記入・提出させる。</p> <p>[記入例] 古典名, 新たな発見, 問題点, 練習枚数</p>
9月	漢字の起源についての課題学習発表（1時間） 漢字の書（続き） 選択学習	25	12	
10月	(1) 金文・大篆・小篆	20~24		
	(2) 隸書 (3) 草書・行書 (4) 楷書 上記から1ないし2種を選び臨書する。	26~29 30~39 40~47		
11月	卒業記念作品集を作ろう - 課題学習 - 仕上がり形式の検討	74・75	14	<p>高校での書道学習の総まとめとして取り組み、卒業記念として展示会を催す。</p> <p>書道・の学習において創作の経験はあるが、広い範囲からの制作意思決定はとまどうと想像されるので、年度初めのシラバス説明時から心の準備をさせておく。</p> <p>展示会は、ほとんどの作品が机上展示となるので、廊下等も利用できる。</p> <p>展示会の企画・運営についても生徒の力量に応じて、主体的にやらせたい。</p> <p>「創作の記録」を毎回記入・提出させる。</p>
12月	書体、文言の検討 練習 選別 表装材料調達 表装 展示	14~17 48~53 64~67		
1月	自己を活かす 生涯学習としての「書」	76		
	「書」と情報技術 「書」とのかかわり	77		

ここでは「漢字仮名交じりの書」と「漢字の書」を選択した一例を示したが、生徒の興味・関心に応じて、7月～10月を「仮名の書」に置き換えることも可能である。適宜変更して計画を立てられたい。